

香りと眼差し、そして、その重さ

—— 河口龍夫

香りを見ることは、できない。

眼差しを嗅ぐことも、できない。

災禍の後に、香りと眼差しが合体し、

美しい関係の結晶となる。

香りと眼差しの結晶は、人の心に香りを届け、
同時に、人の心の眼差しをしづかに受け止める。

手のひらに委ねると、
香りの重さと、眼差しの重さに触れ、心地よい。

Kawaguchi Tatsuo

Chochikukyo

—

河口龍夫

聴竹居で記憶のかけらをつなぐ

2013年3月2日|土|・3日|日|

会場：聴竹居（京都府乙訓郡大山崎町大山崎）

3月2日|土|

△トーク1 14:00—16:00

「アートと哲学／語ることと聴くこと、そして希望を抱くこと」

河口龍夫（現代美術家、筑波大学名誉教授、京都造形芸術大学客員教授）

鞍田崇（哲学者、総合地球環境学研究所特任准教授）

△トーク2 17:00—19:00

「アートと建築／家、記憶、闇、光をめぐって」

河口龍夫

堀部安嗣（建築家、京都造形芸術大学大学院教授）

森桜（アート・コーディネーター、当展企画者）

3月3日|日|

□茶話会1 14:00—16:00

「アートと香り／触れること、嗅ぐこと、そして思い出すこと」

河口龍夫

鞍田愛希子（植物研究家、河口龍夫の香りを添えた新作制作協力者）

□茶話会2 17:00—19:00

「お茶とお菓子とアートと3.11以後の暮らし」

河口龍夫

森桜

主催：「河口龍夫 — 聴竹居で記憶のかけらをつなぐ」展実行委員会

協力：いわき市立美術館、餅匠しづく、柳々堂、リレーションブリッジ、石田嘉宏、荻野和雄、河口千賀子、河口祐毅、木村幸央、小西章子、斎藤さだむ、斎藤多賀子、平野明彦、

松隈章、松村智子

後援：聴竹居俱楽部

企画：森オフィス、アトリエ・ミショー



1.「旅のために・一粒の蓮の種子からの香り」

2007-13年／9×9×2cm／

種子(蓮)、鉛、フェルト、香り、ケース／
32,000円(税込)



2.「白い真珠になった種子」

2012年／8×6×2cm／

貝殻、種子(蓮)、ジェッソ、色鉛筆／
7,000円(税込)

2013年3月、京都の大山崎で「河口龍夫—聴竹居で記憶のかけらをつなぐ」展を開きます。

東日本大震災からもうすぐ2年がたちますが、いまも心に傷を抱える人たちがたくさんいます。被災地はもとより遠く離れた場所でも、あの日以来本音が話せなくなったり、自分の感覚が信じられなくなったり、3.11より前の記憶を思い出せなくなったりともいます。この展覧会では、人間の記憶と深く結びついた「種子」「貝殻」「雨」「涙」「匂い」「旅」などをモチーフにした、河口龍夫の手のひらにのる小さな作品を展示し五感に働きかけることを試みます。そのことを通して、訪れた人々が自分の言葉や感覚、記憶を呼び覚ますきっかけを見つけることを願っています。

河口龍夫は、日本の現代美術を代表するアーティストです。半世紀にわたり「関係」をキーワードに、私たちがふだん忘れがちな人と物と事との見えないつながりをかたちにして表現してきました。一方、会場の聴竹居は、日本の近代建築を代表する昭和初期の木造住宅です。建築家の藤井厚二の自邸で、人間が自然とともに生きることを追い求めた藤井の集大成を、地元の人たちが次の世代へ残そうとしています。

河口は、聴竹居と地元の人々の活動に触発され、この家に寄り添うような展示を行うことで、空間の魅力をいっそう引きだすとともに、かつてこの場所にあった暮らしの気配を呼びおこしたいと考えています。代表作「HIROSHIMA のたんぽぼ」から、大山崎と縁ある竹の根を使った「聴竹根」、植物研究家・鞍田愛希子の協力による種子に香りを添えた新作まで、約60点を展示します。なお展示作品は会場で販売し、収益の一部が聴竹居の保存修復費として活用されます。会期中には、河口と哲学者の鞍田崇、建築家の堀部安嗣とのトークや、「餅匠しづく」によるこの展覧会のために特別につくられた和菓子を味わう茶話会も開きます。

初春の大山崎に「記憶のかけら」を探しにどうぞいらしてください。

日程：見学 3月2日|土|10:00/11:00/12:00、3月3日|日|10:00/11:00/12:00

トーク 3月2日|土|14:00—16:00/17:00—19:00

茶話会 3月3日|日|14:00—16:00/17:00—19:00

*定員 見学/各20名 トーク/各40名 茶話会/各25名

行き方：聴竹居 京都府乙訓郡大山崎町大山崎

JR京都線「山崎」駅、阪急京都線「大山崎」駅からいずれも徒歩7分

*場所の詳細は申込受付後、個別にお知らせします。

会費：見学 1,300円(建物見学料1,000円込)

トーク 2,000円(見学料1,300円込)

茶話会 2,000円(見学料1,300円込、お茶と「餅匠しづく」特製和菓子つき)

*見学料の一部は、聴竹居の保存修復費に活用されます。

申込期間：2013年1月21日|月|から2月18日|月|まで。

*申込多数の場合は、抽選の上、2月22日(金)までに結果をお知らせします。

申込方法：以下をご明記の上、メールで morisakura@nifty.com(森オフィス・森桜)までお申込みください。
なお、同伴者は1名様までとさせていただきます。

①希望日時(第1、第2希望) ②イベント名 ③申込者の名前(ふりがな)、職業、所属、電話、メール
④同伴者の名前(ふりがな)、職業、所属 ⑤合計人数 ⑥当展へのメッセージやトークで訊きたいことなど。

お問合せ：森オフィス メール morisakura@nifty.com ファックス 075-411-8298

聴竹居ホームページ <http://www.chochikukyo.com/>

河口龍夫(現代美術家、筑波大学名誉教授、京都造形芸術大学客員教授)

1940年兵庫県生まれ、1962年多摩美術大学卒業、近年の主な個展に京都市美術館(1999)、兵庫県立美術館(2007)、名古屋市美術館(2007)、東京国立近代美術館(2009)、いわき市立美術館(2012)。主なグループ展に「東京ビエンナーレ1970人間と物質」、「第8回パリ・ビエンナーレ」(1973)、「前衛芸術の日本」(1986)、「大地の魔術師たち」(1989)、「大地の芸術祭・越後妻有アートリエンナーレ」(2000,03,12)、「瀬戸内国際芸術祭2010」
<http://www.tatsuokawaguchi.com/>

—

鞍田 崇(哲学者、総合地球環境学研究所特任准教授)

アートをはじめ、様々なジャンルを手がかりに、現代社会における環境問題の思想的意味を問い合わせ、それを表す言葉を探求する。1970年兵庫県生まれ、2001年京都大学大学院修了、博士(人間・環境学)。主な著書に『民藝』のレッスンつたなさの技法』(編著/2012)、『焼畑の地球学』(編著/2011)、『古寺巡礼 高山寺』(共著/2009)、主な訳書に絵本『たべることはつながること』(共訳/2009)、『雲間氣の美学』(共訳/2006)

—

堀部安嗣(建築家、京都造形芸術大学大学院教授)

人の営みと風景との調和を考え、いつの時代にも変わることのない建築の価値を追求する。1967年神奈川県生まれ、1990年筑波大学卒業後、益子アトリエ(益子義弘)勤務を経て、1994年堀部安嗣建築設計事務所設立。アートと関わるのある作品に「ある町医者の記念館」(1995)、「伊豆高原の家」(1998)、「牛久のギャラリー」(2001)、「赤城のアトリエ」(2003)、「アビタレ玉川田園調布」(2003)、「KEYAKI GARDEN」(2008)

<http://www1.ocn.ne.jp/~horibe-a/>

—

鞍田愛希子

(植物研究家、アトリエ・ミショー主宰、河口龍夫の香りを添えた新作制作協力者)
触る、嗅ぐ、味わうなど、植物を体内に取り込む利用法を通して、農薬を使わない切り花や苗の普及活動を行う。1980年大阪府生まれ、2003年立命館大学卒業、植木屋と花屋勤務を経て、京都市花き振興協会主催の花き消費拡大プロジェクトに参画。2011年アトリエ・ミショー設立。主な講座の企画に「大人の学び」(2011-)、「flow perfume.flow...」(2012-)

<http://atelier-michaux.com/>

—

石田嘉宏(和菓子職人、餅匠しづく店主、当展特製和菓子制作者)

1963年大阪府生まれ、1945年創業の和菓子店の3代目。岸和田と大阪に3店舗を構え、同店の生菓子すべてを1人でつくる。材料にこだわりを持ち、特に3.11以降は、生命の源としての食のあり方を追求する。

<http://mochi-shizuku.com/>



3.「聴竹居」(2012年11月)

*1.2.3.撮影：斎藤さだむ

【当展プレ企画】

レクチャー&ワークショップ／植物とアート1

種子に未来を託すこと

2013年2月9日(土) 17:30—20:00

会場：VADE MECVM Showroom #2 Gallery Shop + Cafe(大阪・京町堀)
講師：森桜、鞍田愛希子

お問合せ：am@atelier-michaux.com

詳細：http://atelier-michaux.com/event/AM/VM_05.html